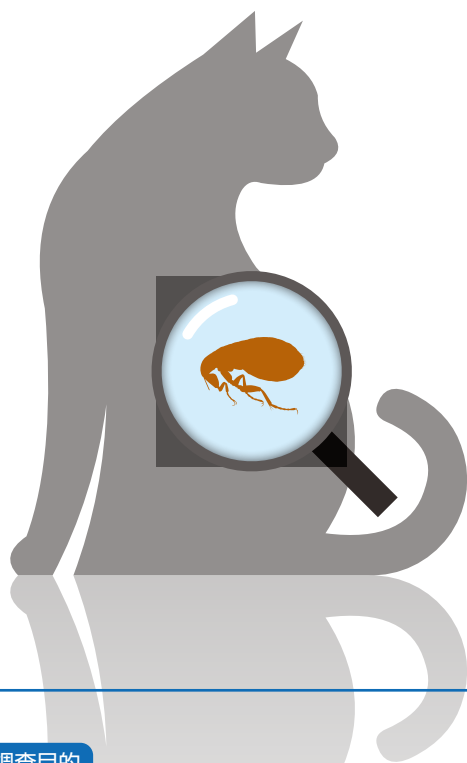


ゾエティス・ジャパンが提供する獣医皮膚科診療のトピックスを先生方にお知らせします。



ノミ寄生症例における

処方薬剤に関する 獣医師調査レポート

調査目的

近年、「ノミ駆除薬（動物用医薬品）に対するノミの感受性が低下しているのではないかと」思われる症例を聞く頻度が高くなっています。ノミアレルギー性皮膚炎などの皮膚科治療において、薬剤耐性を示すノミの出現は、重大な問題となりますが、本邦ではまだ「明確に耐性～低感受性を示すノミ株」は確認されていないと思われます。

これら「疑わしい症例」の臨床経験について、また「ノミ駆除薬を選択する際のノミに対する感受性への臨床獣医師の考え方」を全国規模での調査を実施いたしましたので、報告致します。

調査設計

- 2020年1月実施
- 全国の小動物開業獣医師313名が回答
- Vetpeerを通じたWebアンケート方式

調査項目

- ① 1年間で来院した猫のノミ寄生症例
- ② ノミ寄生症例に対する処方薬剤成分（来院前／後）
- ③ 薬剤選択における「ノミに対する薬効成分の感受性」の重要度意識調査



回答者地域分布

北海道・東北	29名
関東	123名
北陸・中部	47名
近畿	68名
中国・四国	22名
九州・沖縄	24名
合計	313名

調査項目

①

1年間で来院した猫のノミ寄生症例

約3人に1人は、ノミ駆除薬を投与されていたのに「ノミ寄生」が確認された症例を経験しています。

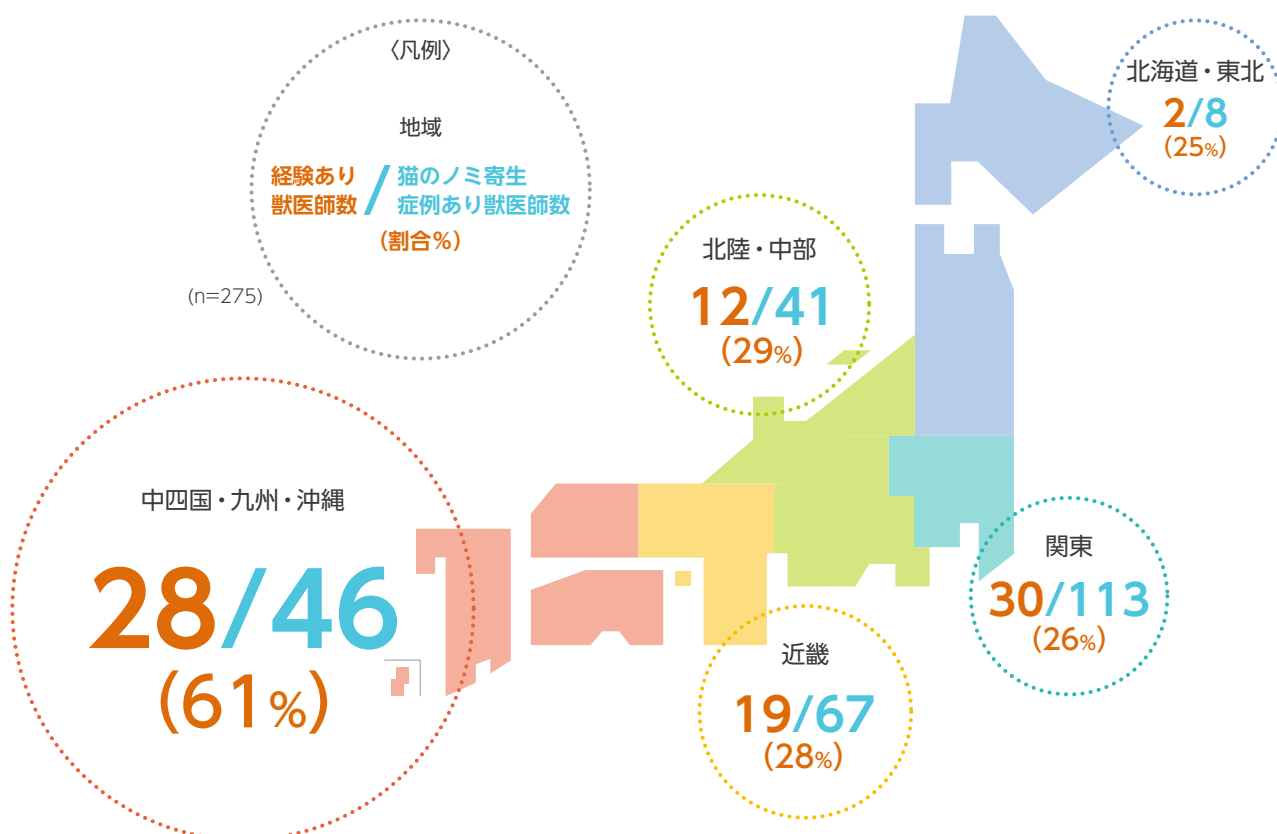
Q 2019年に猫のノミ寄生があった症例のうち、『ノミ駆除薬を使用していたのにノミ寄生があった』症例はありましたか？

寄生症例を経験した獣医師 33%



経験のある獣医師の割合は、

近畿以西エリアで高い傾向が見られました。



調査項目

2

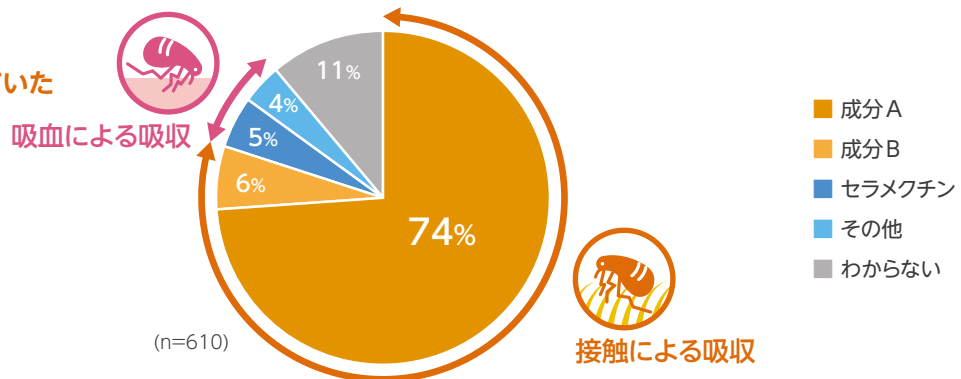
ノミ寄生症例に対する 処方薬剤成分 (来院前／後)

ノミ寄生症例に対しては、来院前後で

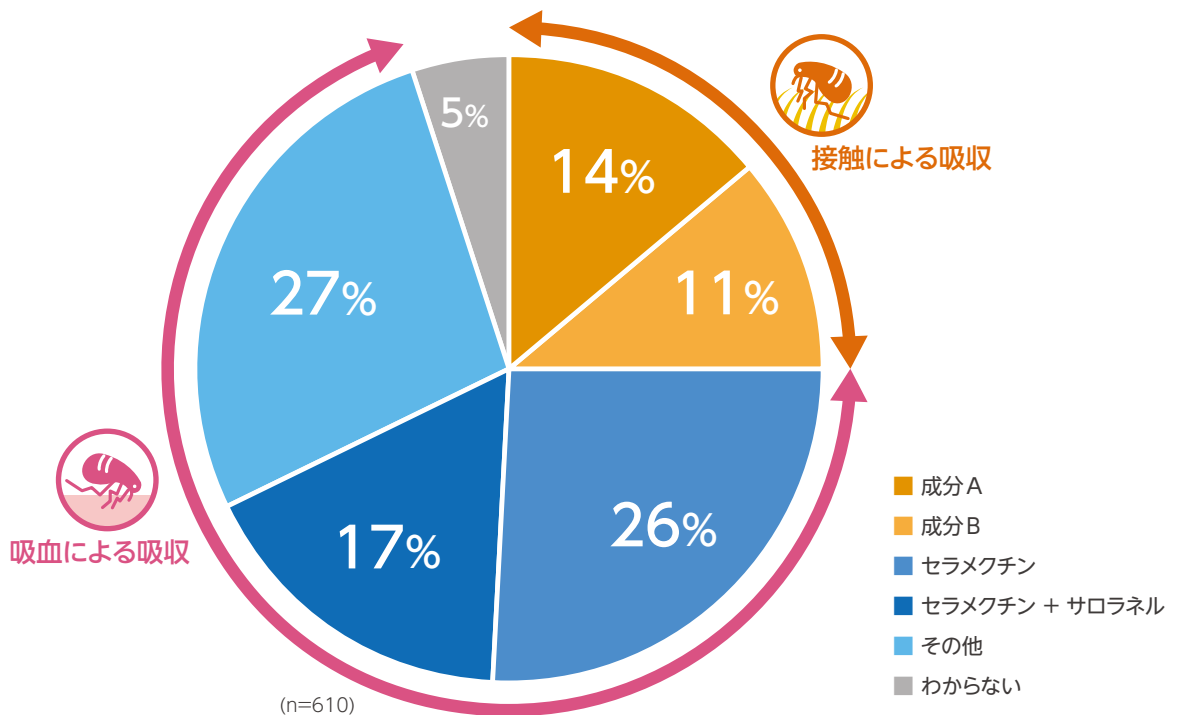
「作用部位の異なる薬効成分」が処方されていました。

Q 「ノミ駆除薬を使用していたのにノミ寄生があった」猫の症例では、どの成分の駆除薬が使用されていましたか？ また、その後どの成分の駆除薬を処方されましたか？

ノミ寄生症例で、
来院前に投与されていた
薬剤成分割合



ノミ駆除のため **新たに処方された** 薬剤成分



※ 今回の調査は獣医師に対するアンケート形式であるので、薬剤の感受性低下などに対する学術的な検証を行ってはおりません。

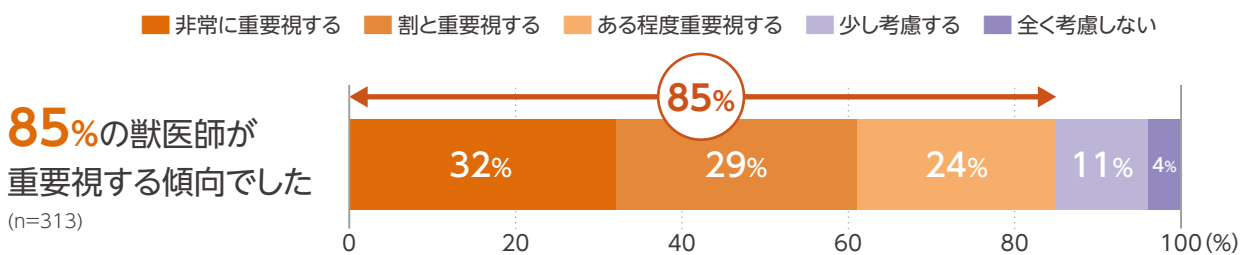
調査項目

3

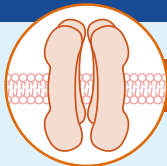
薬剤選択における「ノミに対する薬効成分の感受性」の重要度意識調査

既に多くの獣医師が「薬効成分の感受性」を意識して
ノミ駆除薬を処方すると回答しました。

Q ノミ駆除薬の採用・処方選択において、「ノミに対する薬効成分の感受性」はどの程度重要視されますか？



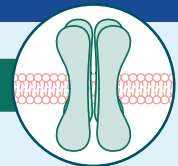
レボリューション® プラスは、2つの薬効成分（セラメクチンとサロラネル）がそれぞれ別のレセプターに作用し、高い駆除効果を発揮します。



グルタミン酸レセプター

セラメクチン

節足動物及び線虫類のグルタミン酸レセプターの塩素イオンチャンネルに結合し、細胞内への塩素イオンの透過性を亢進することにより、神経活動を抑制する。



GABAレセプター

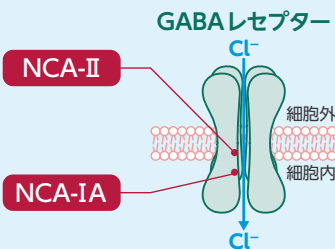
サロラネル

節足動物のGABAレセプターの塩素イオンチャンネルに結合し、細胞内への塩素イオンの透過性を抑制することにより、神経刺激を亢進させる。

GABAレセプター内での作用点の違い

サロラネルなどのイソオキサゾリン系化合物はNCA-II結合部位に作用

フェニルピラゾール系化合物はNCA-IA結合部位に作用



ゾエティスの
セラメクチン + サロラネル製剤

レボリューション® プラス



マダニ効能が
プラスで進化。
さらに頼もしくなった
レボリューション®。